

平成30年度 地方創生推進交付金事業 検証シート

事業名	霧島ガストロノミーと地域商社で興す「食」のムーブメント事業
担当部局課名	商工観光部霧島PR課

1. 事業概要等

事業を企画した目的及び事業の概要	霧島ガストロノミー推進協議会の目的は、霧島ガストロノミーの理念である「きりしま食の道10カ条」に基づき、産学官連携組織である「霧島ガストロノミー推進協議会」及び地域商社「霧島商社」が本事業のエンジンとなり、地域特性を活かした霧島産品の六次産業化やブランド化、霧島ガストロノミーを体験することができるメニュー開発・提供などを行うものである。		
	<p>平成30年度は、明治維新150周年、大河ドラマ「西郷どん」の放映により、国内外における鹿児島県の注目度は高まり、特に明治維新の立役者である西郷隆盛をはじめとする多くの偉人たちの心や傷を癒した本市の認知度は高まることから、この好機に、霧島の食文化を活かした新たな霧島の食に発展させ、霧島の食材を学び、使い、食べる機運の醸成につなげる取組を実施した。</p> <p>本市で初となるブランド認定制度を運営し、38件の認定品・活動が「ゲンセン霧島」に認定され、パンフレット、ポスター等の制作、イベントの実施など、ゲンセン霧島ブランドのブランディングを行った。また、気軽に霧島ガストロノミーを体験できるご当地料理として、霧島産品を包んだ包み料理「霧島つつみ」を開発し、次年度以降の取組の礎を築いた。</p> <p>その他にも、ブランド認定を目指す事業者の取組を活性化させるためクラウドファンディングサイト「FAAVO霧島」を運営や東京農業大学と包括連携協定を締結し、協議会のブランディングと今後、取組の連携の礎を築いた。</p>		
交付額	6,463,480 円	交付対象事業費	12,926,960 円
事業始期年月	平成30年4月1日	事業終期年月	平成31年3月31日
霧島市ふるさと創生総合戦略との関係性	基本目標 I まちを元気にする、人を豊かにする産業づくり		
	関連施策 I -②「強い」農林水産業の育成「稼ぐ」農林水産業の創造		

2. 本事業における重要業績評価指標 (KPI)

設定した目標値の根拠	霧島ガストロノミー推進協議会は、商工業、農業団体、生産者、大学、行政機関などで構成しており、これら政策連携による農商工連携を中心とした販売実績を具体的に数値化し、評価・検証することで、本事業の成果を明確にするものである。				
	<p>①本事業を通じて開発・生産された産品やブランド認定品の販売実績は、本事業の成果として最もわかりやすい指標である。(アウトカム)</p> <p>②本事業を通じて開発・生産された産品やブランド認定品を取扱う事業者の件数は、本事業の成果を一定数測ることができる指標である。(アウトカム)</p> <p>③ブランド認定数は、本事業の活動量を一定数測ることができる指標である。(アウトプット)</p> <p>④ブランド認定応募数は、本事業の活動量を一定数測ることができる指標である。(アウトプット)</p>				
	指標	達成状況	H29基準値	H30実績値	目標値
KPI①	本事業を通じて開発・生産された産品及びブランド認定品の売上高・出荷額	未達成	—	1,467,279円	10,000,000円
KPI②	本事業を通じて開発・生産された産品及びブランド認定品の新規顧客契約件数	達成	—	30件	5件
KPI③	ブランド認定数(七つ星、五つ星、三つ星)	達成	—	38認定	16認定
KPI④	ブランド認定応募数	達成	—	41応募	30応募

3. 本事業の地方創生への効果

事業効果
地方創生に相当程度効果があった

【凡例：選択肢】

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

4. 実績値を踏まえた今後の事業展開の方針

今後の事業展開の方針	対象事業が総合戦略の推進に及ぼした影響及び今後の事業展開方針の理由
事業の継続	本事業により、本市の魅力的な食に関連する地域資源を発信する仕組みが構築され、それによって、六次産業化の推進や市場のニーズにあった新製品の開発・提供、話題性のある効果的なP R等に繋がっていくものである。また、霧島の食材、食文化を活用したご当地料理の開発・提供は、市内のホテル・旅館・飲食店等で霧島食材の積極的な地産地消が図られ、その地域の食材を食べたいという旅行者ニーズを満たすものであり、インバウンド観光振興を含め、霧島の食を軸としたガストロミーツーリズムとして発展させることで、本市への誘客拡大、旅行者の満足度向上、交流人口拡大に伴う経済活動の活性化に繋がるものである。

【凡例：選択肢】

①	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
②	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる）
③	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う（または、行った））
④	事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する（または、した））
⑤	事業の終了（当初予定通り事業を終了する（または、した））